

平成29年度
事業報告書

公益財団法人エイズ予防財団

事業部門

I 寄付金等による事業

1 普及啓発事業（公1・普及啓発事業）

(1) コミュニティアクション2017

「世界エイズデー」キャンペーンテーマ「UPDATE！エイズのイメージを変えよう」の下、厚生労働省や地方自治体のキャンペーンと協調しつつ、同時並行的に進めるコミュニティ主導のキャンペーンに参加した。

実施期間：平成29年11月1日（水）～12月31日（日）

実施内容：共通課題による全国的なエイズイベント開催の促進及び全国のエイズイベントの情報集約と広報支援

(2) 啓発用パンフレット等の作成・提供

HIV感染症の基礎情報、HIV感染予防の具体的な方法等、HIV感染予防啓発のためのパンフレットを制作し、自治体・保健所・企業・学校・NGOなど希望する団体等に無償提供した。

①「HIV感染症・エイズ HIV検査普及週間 2017」10,000部

②「HIV感染症・エイズ 世界エイズデー 2017」40,000部

(3) 「HIV検査普及週間」「世界エイズデー」に合わせた啓発活動

ア「HIV検査普及週間」キャンペーン

厚生労働省主催のHIV検査普及週間イベント「レッドリボントーク 2017」（5月28日（日）13:00～15:00）に連動させ、街頭キャンペーンを実施した。

日時：平成29年6月4日（日）13時30分～15時30分

場所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：パンフレット、啓発メッセージ付ウェットティッシュ、コンドーム等3,000セット

イ「世界エイズデー」キャンペーン

厚生労働省主催の世界エイズデーイベント「RED RIBBON LIVE 2017」（11月30日（木）18:30～21:15）に連動させ街頭キャンペーンを実施した。啓発グッズとして、世界エイズデーポスターをあしらった使い捨てカイロを作製、配布した。

日時：平成29年12月3日（日）13時30分～15時30分

場所：渋谷駅ハチ公前周辺（東京都渋谷区）

配布物：パンフレット、使い捨てカイロ、コンドーム等3,000セット

ウ「オカモトラバーズ研究所 presents 2017. 世界エイズデーレッドリボン・ペアサ

イバークライミング」

世界エイズデーに合わせ、アパレルブランド ベネトン及びコンドームメーカー オカモト㈱との共催により街頭キャンペーンを実施した。

日 時：平成29年12月15日（金）15時00分～21時00分

平成29年12月16日（土）14時00分～21時00分

場 所：（東京都渋谷区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット5,000セット

エ HIV検査普及啓発用ポスターの配布

「HIV検査普及週間」に向けて、男性を対象としたHIV検査受検促進のためのポスター「こんな時ナンだけど」を作成し、地方自治体に配布した（B3判タテ、2種類、計3,600枚）。

（4）Act Against AIDS共同事業

AAA運営事務局と共同し、「正しい知識を身につけること」がHIV感染の予防になり、感染者・患者への偏見、差別も生まないという呼びかけを基本として、エイズ知識啓発パンフレット、ポスターを配布した。

（5）大阪におけるエイズ予防啓発活動

ア 大阪エイズウィークス2017の実施

関西地域でのHIV感染症／エイズへの関心を喚起するため、世界エイズデーの前後数週間を大阪エイズウィークス2017とし、エイズに関する様々な領域で活動するNPO・団体・個人が、自治体・企業・メディア等と連携しながら、それぞれの得意分野でそれぞれの対象者に焦点を当てたきめの細かい企画が行われるよう働きかけた。

共同街頭キャンペーンとして、大阪府・市等が実施した御堂筋オータムパーティー2017に参加、ブース出展によりエイズ予防を呼びかけた。

名 称：御堂筋オータムパーティー2017（御堂筋ランウェイ）

日 時：11月12日（日）14時～16時

配布物：パンフレット、啓発メッセージ付ウェットティッシュ、コンドーム等
3,900セット

ウ 男性を対象とした啓発活動

わが国におけるHIV感染症・エイズの拡がりには男性に集中していることから、男性を対象に、HIV検査受検促進のための啓発活動を実施した。

（1）男性のHIV検査受検促進看板掲示

期 間：2017年11月19日～12月18日

場 所：大阪市北区堂山町周辺

内 容：大阪エリアでMSMの集まる堂山町周辺に、インパクトの強いビジュ

アルを用いHIV検査を呼びかける屋外看板を掲出した。

(2)男性向け検査受検促進メッセージ付ウェットティッシュの配布

- ・御堂筋オータムパーティ2017御堂筋ランウェイ（11月12日（日）14時～16時、3,900個）

(3)HIV検査受検促進CM動画YouTubeバンパー広告の実施

期 間：2017年11月29日～12月13日

内 容：屋外看板掲示と共通したビジュアルの6秒動画を作成し、YouTubeバンパー広告に掲出した。配信対象セグメントは近畿2府4県在住の18～54歳で、男性8：女性2の割合と設定した。合わせてエイズ予防財団ホームページに特設ページを設置、すべての動画を視聴できるようにした。

結 果：期間中バンパー広告は795,407回表示され、90.6%が最後まで視聴された。

(6) その他啓発普及事業

地域で行われているイベント等にブースを設置し、パンフレット、レッドバンド等の配布を行うとともに、募金活動を実施した。

ア ブース出展による広報

「RED RIBBON LIVE 2017」ブース設置

日 時：平成29年12月3日（日）18時30分～21時15分

場 所：赤坂BLITZ（東京都港区）

配布物：予防啓発グッズ・パンフレット450セット

備 考：世界エイズデーポスターコンクールの入賞作品を展示

イ 大学への協力による啓発活動

東洋大学社会福祉学科社会貢献コースが授業として行う社会貢献フィールドワークに協力し、学生4名を受け入れ、啓発グッズの作成指導を行うとともに、世界エイズデーに際し、東洋大学内での配布活動を実施した。

配布活動日時：平成29年12月6日～8日 12時～13時、17時30分～18時30分

配布数：学生作成の使い捨てカイロ、パンフレット各1,000

2 助成事業（公2・助成事業）

エイズに関する啓発普及活動を行うボランティア団体やNGOに対し、その活動を支援するため助成金を交付した。平成29年1月に公募を行い、この事業の公正中立な実施のために設置された助成事業選考委員会による審査、選考結果を踏まえて助成を行った。対象事業、助成団体及び交付金額は、以下のとおり。

ア エイズ患者・HIV感染者等に対する社会的支援事業

1	NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス	1,000,000円
---	-----------------------------	------------

イ エイズ予防に関する啓発普及事業

2	AIDSネットワーク横浜	300,000円
3	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会	1,000,000円
4	特定非営利活動法人りょうちゃんず	200,000円

3 情報収集提供事業（公4・調査研究事業）

インターネットなどにより、国内外のHIV感染症・エイズに関する情報の収集に努めた。

4 国際協力事業（公6・国際協力事業）

台湾エイズ財団のスタッフ及びボランティアらの訪問を受け入れ、日本のエイズ発生動向、エイズ対策の現状、エイズ予防財団の活動などについて講義を行った。

日 時：平成29年5月30日（火）16時00分～17時00分

人 数：4名

5 抗ウイルス療法支援事業（公1・普及啓発事業）

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究班の協力を得て、同班の作成した『抗HIV治療ガイドライン』を増刷し、配布した（A4版2,500部、縮刷版1,200部）。

6 ファンドレイジング活動（公益目的共通事業）

上記公益事業を実施するため、関連企業等に対し寄付金の募集を行った。

7 エイズ国際会議派遣事業（公2・助成事業）

第9回国際エイズ学会 HIV/AIDS に関する学術会議（2017年7月23日～26日、仏国パリ）及び CROI 2018（The annual Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections、2018年3月4日～7日、米国ボストン）に参加する国内の若手臨床医等で、一定条件を満たす者について旅費等を助成し、各国関係者との意見交換及びエイズに関する最新の知見を得ることにより、わが国の HIV 感染症・エイズ診療の広範な充実、活性化を図った。

助成対象者

第9回国際エイズ学会 HIV/AIDS に関する学術会議 17名

CROI 2018 13名

8 クリニカル・ケア・オプション日本語版（公1・普及啓発事業）

米国の医学生涯教育プログラムのプロバイダーであるクリニカル・ケア・オプション（Clinical Care Options）のHIV感染症分野から、日本においても有用と考えられるトピックス、コンテンツを取り上げ、日本語に翻訳、ホームページにて公開した。また、NAM Publicationsが発行するHIV領域におけるコンテンツから、国際学会公式ニュースレポートを取り上げ、公開した。

II HIV感染者等保健福祉相談事業等（厚生労働省委託事業）

1 HIV感染者等保健福祉相談事業（公5・相談事業）

（1）エイズ中核拠点病院における相談事業

エイズ中核拠点病院（36機関）に相談員を配置し、HIV感染者・エイズ患者等への心理的援助を行った。

また、エイズ中核拠点病院の心理カウンセラー、MSW等相談員を対象に、HIV感染症／エイズの最新知識の習得とHIV陽性者のカウンセリングにおける問題と対応の共有により、相談者への対応・支援に関する能力の向上を図るため、研修会を開催した。

実施日：平成30年2月10日（土）～11日（日）

場 所：オフィス東京（東京都中央区）

参加者：38人

（2）HIV検査事業

ア 厚生労働省主催イベントに合わせた臨時HIV検査を実施した。

○HIV検査普及週間

実施日：平成29年6月4日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：53人

○世界エイズデー

実施日：平成29年12月3日（日）

場 所：シブヤ・ネクサス（東京都渋谷区）

受検者：39人

イ 「HIV検査・相談窓口」における情報サービスの実施

全国の保健所等における検査日時や場所、予約の方法、電話相談等についての情報を収集し、エイズ予防情報ネット（以下「API-Net」）を通じて提供した。

（3）専門相談員による電話相談

当財団内に電話相談室を設置し、専門相談員による電話相談を実施した（フリーダイ

ヤルで、月曜から金曜までの毎日、午前10時～午後1時、午後2時～5時)。

平成29年度電話相談受付件数：5,424件

2 HIV診療医師情報網支援事業（公1・普及啓発事業）

HIV感染症の臨床医等による交流等の連携を図るため各ブロックに設置された情報網に対し、財政的支援を行った。各情報網では、症例検討会や講演会の開催、ネットワーク紙の発行等のほか、今後の取り組みを共有するための会議を開催した。

支援先情報網（6カ所）

東北HIV診療ネット／東海ブロックエイズ診療拠点病院連絡協議会／北陸HIV臨床
談話会／関西HIV臨床カンファレンス／岡山HIV診療ネットワーク／九州ブロック
エイズ診療ネットワーク

3 エイズ治療拠点病院医療従事者海外実地研修事業（公2・助成事業）

エイズ治療拠点病院における診療能力の向上及びHIV感染症／エイズ診療のリーダー的役割を担う人材の育成を図るため、エイズ診療の経験豊富な米国サンフランシスコ市の医育機関に医療従事者を派遣し、臨床実地研修を実施した。

研修先：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校

日 程：平成29年11月25日（土）～12月10日（日）

受講者：4人（医師2名、薬剤師2名）

4 エイズ国際協力計画推進検討事業（公4・調査研究事業）

アジア地域におけるわが国のHIV感染症・エイズ対策分野での国際協力計画作成のための提言を行うことを目的に、台湾を訪問し、HIV感染症流行状況、エイズ予防啓発活動などの実地視察及び現地担当者との意見交換等を行った。

訪問地：台湾 台北市

日 程：平成30年3月13日（火）～17日（土）

調査者：嶋根卓也（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研
究所 薬物依存研究部心理社会研究室長）

阿部憲介（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター薬剤部 研究教育
主任）

柏崎正雄（エイズ予防財団）

5 エイズ予防情報センター事業（公4・調査研究事業）

WEBサイト「エイズ予防情報ネット」（API-Net）を運営し、HIV感染者・エイズ患者やその家族、一般国民、医療関係者等に対し、エイズに関する啓発情報、HIV検査情

報、NGO活動情報等を提供した。年間の主な更新回数は38回、アクセス件数は127,125件であった。

6 青少年エイズ対策事業

(1) 研修担当者育成事業（公3・人材育成事業）

性に関する意思決定や行動選択に係る能力が形成過程にあるとして個別施策層とされる高校生・中学生に対する、学校と地方行政とが連携した効果的なHIV感染症・STI予防教育を実践するため、全国の地方自治体・保健所等の職員等を対象とした研修会を実施した。

実施日：平成30年1月26日（金）

場 所：家の光会館（東京都新宿区）

受講者：44人

(2) 「世界エイズデー」ポスターコンクール（公1・普及啓発事業）

全国の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及び一般を対象に、HIV感染症・エイズ予防及び差別・偏見の解消を呼びかけるポスターコンクールを実施した。選考は、デザインの専門家、有識者等によるポスターコンクール審査会を設置して行った。

受賞作品はAPI-Netで公表するとともに、厚生労働省主催の世界エイズデーイベント会場においてパネル展示した。また、世界エイズデーキャンペーンポスターとして選定した作品は、厚生労働省により印刷され、全国に配布された。

募集期間：平成29年4月28日（金）～9月5日（火）

応募総数：356点、第1次審査通過作品89点

結 果：小・中・高・一般の各部門につき最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作3点を選考した。また、各部門の最優秀賞作品の中から1点を世界エイズデーキャンペーンポスターとして選定した。

7 エイズ治療啓発普及事業（公1・普及啓発事業）

(1) 情報提供誌の発行

エイズに関する治療、研究等の情報を全国のエイズ治療拠点病院の医療従事者等に提供し、診療支援を行うことを目的とした情報提供誌を作成、配布した。

タイトル：HIV感染症とAging講演録

講 師：安田宜成（名古屋大学大学院医学研究科CKD先進診療システム学）

瀧永博之（国立国際医療研究センターエイズ・治療研究開発センター）

備 考：平成29年11月25日開催の第31回日本エイズ学会学術集会・総会及びMSD株式会社との共催シンポジウム2「HIV感染症とAging」の講演を取りまとめたものである。

発行部数：500部

(2) 「世界エイズデー」キャンペーンテーマ検討会議の実施

「世界エイズデー」キャンペーンテーマの決定プロセスにできるだけ多くの人に関与してもらうよう、API-Netによる意見募集、フォーラムを開催の後、選考委員によるテーマ検討会議での議論、ワーディングを経てキャンペーンテーマ案を策定し、厚生労働省に提出した。

(3) HIV検査受検促進のための啓発情報提供

6月のHIV検査普及週間及び12月1日の世界エイズデーに際し、各自治体で実施されるイベントや臨時HIV検査などについて情報収集し、API-Net特設ページにより公開した。また、世界エイズデーにおいては、実施した取り組みについて報告を求め、公開することにより、次年度以降の他自治体の参考に資した。

8 ボランティア指導者育成事業（公3・人材育成事業）

エイズNGO活動におけるリーダー養成のため、NGO指導者研修会を開催し、HIV感染症の流行状況と課題、HIV陽性者の相談・支援、予防介入手法、NGO等の関係機関による取り組み等の学習の他、各NGOの活動内容の発表及び意見交換、NGO活動の課題と解決をテーマとしたワークショップを行い、持続可能な活動のためのスキルの向上を図る機会を提供した。

実施日：平成30年1月26日（金）～27日（土）

場 所：家の光会館、飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

受講者：7人

9 相談員養成研修事業（公3・人材育成事業）

(1) HIV／エイズ基礎研修会

HIV感染症／エイズに関する基本的な知識及びHIV陽性者や支援活動への理解の向上を図るため、次のとおり研修会を実施した。

目 的：HIV感染症の流行状況、HIV感染症の病態と治療を学ぶとともに、HIV陽性者、セクシュアリティ、HIV感染症の予防教育の実際を知る。

対 象：エイズに関する業務・活動に携わる（又は携わろうとしている）行政担当者、医療関係者、教育関係者、介護関係者、企業、NGO、学生等

実施日：平成29年6月16日（金）

場 所：飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

受講者：81人

(2) HIV検査相談研修会

HIV感染症／エイズに関する相談体制の質の向上・充実を図るため、次のとおり研修

会を実施した。

目的：HIV感染症の病態・治療、HIV検査、社会福祉制度、セクシュアリティ、カウンセリングに関する知識や対応ポイント等について学ぶとともに、検査相談時対応の演習を行う。

対象：HIV検査相談業務に携わる保健所、保健センター、クリニックを含む医療機関及びその他機関の担当者

実施日：東京 平成29年8月24日（木）～25日（金）

大阪 平成29年10月26日（木）～27日（金）

場所：東京 飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

大阪 天満研修センター（大阪市北区）

受講者：東京 78人、大阪 81人

10 中核拠点病院連絡調整員養成事業（公3・人材育成事業）

エイズ中核拠点病院の看護師等を養成し、HIV診療に必要なチーム医療の調整及び地方ブロック拠点病院やエイズ治療拠点病院との調整に必要な能力を習得させることにより、地方ブロック拠点病院に患者等が集中する事態の解消並びに適切な医療の提供を図った。

（1）研修事業

エイズ中核拠点病院においてHIV医療に係る診療科間連携調整等のチーム医療に従事する看護師等を対象とし、6週間の研修を実施した。

研修期間中初期の4週間はACC又は国立病院機構大阪医療センターの実施するコーディネーターナース研修への参加とし、その後の2週間は地方ブロック拠点における実地研修を行った。

受講者：仙台医療センター1人（ACC／仙台医療センターにて研修）

名古屋医療センター1人（ACC／名古屋医療センターにて研修）

（2）全国中核拠点病院連絡調整員会議

前記のチーム医療に従事する看護師等の連絡調整員（同様の役割を担う者を含む。）等を対象とする会議を開催した。

ACCの医師によるHIV診療に係る最新情報の講義のほか、HIVコーディネーターナースと院内他診療科専門ナースによる連携事例紹介、地方ブロック拠点病院看護実務者との合同により、各病院・地域の現状報告、情報提供などを行った。

実施日：平成30年3月9日（金）～10日（土）

場所：飯田橋レインボービル（東京都新宿区）

参加者：35機関44人

11 HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業

治療の進歩により長期存命が可能となったHIV感染者・エイズ患者に対する在宅医療・介護の環境を整備するため、訪問看護を行う看護師等への実地研修、在宅医療・介護を行う医療機関等への支援チーム派遣、地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師等へのHIV医療講習会を実施した。

(1) 実地研修事業（公3・人材育成事業）

訪問看護・訪問介護サービスを提供している事業所の看護師や介護職員をエイズ中核拠点病院等に1週間程度派遣し、HIV感染症／エイズ医療に係る実地研修を実施した。研修を実施した病院は19病院で、受講者数は63人であった。

(2) 支援チーム派遣事業（公5・相談事業）

エイズ治療の専門的知識を有する支援チームをエイズ中核拠点病院に設置し、在宅医療・介護を行う医療機関等の要請に基づいて同支援チームを派遣する事業を実施した。支援チームを設置した病院は25病院であり、そのうち支援チームを派遣したのは名古屋医療センター（5回）、京都大学医学部附属病院（1回）、愛媛大学医学部附属病院（3回）、産業医科大学病院（2回）、熊本大学医学部附属病院（2回）、であった。

(3) HIV医療講習会の開催（公3・人材育成事業）

地域で患者等の診療に携わる医師、歯科医師、看護師、臨床工学技士等を対象として、HIV感染症／エイズに関する知識や感染予防等に関する講習会を都道府県医師会、同歯科医師会、同透析医会の協力を得て実施した。講習会を実施した医師会は9府県、歯科医師会は11道府県、透析医会は2県であった。

III 同性愛者等向けコミュニティセンター事業

（厚生労働省委託事業、公1・普及啓発事業）

同性愛者等向けコミュニティセンター（以下「センター」）を、仙台市青葉区国分町、東京都新宿区新宿2丁目、名古屋市中区栄、大阪市北区堂山町、沖縄県那覇市壺屋の5地域に設置し、以下の事業を行った。

(1) 地域ボランティア団体（CBO）による運営

センターの運営は、上記研究班においてコミュニティベースの啓発活動の実績を示してきた、地域の男性同性愛者等で構成するCBOの協力を得、同性愛者等に訴求性のある効果的な啓発活動を推進した。財団は、各センターでのCBO活動を効果的に進めることを総合的に支援する役割を担った。また、地域における男性同性間のHIV感染対策と連結するよう、自治体とも密接な連携を図った。

(2) HIV感染症・エイズ予防啓発のための資材作成と配布

同性愛者等のセクシュアル・マイノリティやHIV感染者に対する偏見・差別について

は、地域によって異なった背景があるため、対象地域の特性に配慮しつつ、訴求性のある啓発資材等を開発し、普及を図った。

(3) 同性愛者等におけるHIV感染症・エイズの予防や支援のための研修会の実施

地域の同性愛者等に対する偏見や差別を解消するため、また、HIVに関する相談やHIV検査等を同性愛者等が安心して受けられる環境を構築するため、保健医療従事者、教育関係者、自治体職員等を対象とする研修会を実施した。

(4) 相談事業

同性愛者等の性的指向を踏まえた、感染予防やHIV検査機関等に関する相談、情報提供を行った。また、相談件数、内容等の集計を行った。

(5) その他の事業

本事業は、同性愛者等を対象としている商業施設が集積する地域において啓発活動を行う拠点を設置するものであり、各種施設や企画イベントと連携することで、より一層の効果が期待されるため、5地域で活用できるコミュニティセンター紹介フライヤーを作成、配布した。また、商業施設を中心としたコミュニティに出入りすることのない同性愛者等に対しても、啓発イベント、インターネット、各種メディア等を通じて啓発普及を図った。

IV エイズ対策研究推進事業 (厚生労働科学研究費補助金)

厚生労働科学研究事業エイズ対策研究事業を推進するため、以下の事業を実施した。

実施に当たり、応募申請の審査、採択を行うため、エイズ対策研究推進事業運営委員会を設置した。委員会は3回開催した。

委員：石川信克（結核研究所）／鎌田光明、日下英司（国立国際医療研究センター）
／倉田毅（国際医療福祉大学塩谷病院）／中村安秀（甲南女子大学）／永井美之（名古屋大学）／山内和志（国立感染症研究所）

なお、外国人研究者招へい事業、外国への日本人研究者派遣事業、外国の研究機関等への委託事業については、公募を行ったが申請者はなかった。

(1) 若手研究者育成活用事業 (公2・助成事業)

若手研究者23名を採用、地方ブロック拠点病院等（10機関）に派遣し、エイズ対策研究に参画させることにより、当該研究の推進を図るとともに、将来のわが国におけるエイズ対策研究の中核となる人材の育成に努めた。

V 地方ブロック拠点病院医療従事者等確保事業（厚生労働省補助金）

エイズ地方ブロック拠点病院の役割である下記業務実施にふさわしいと判断される者、7人を非常勤職員として採用し、エイズ地方ブロック拠点病院7カ所に出向させた。

業務内容

研 修：ブロック内の拠点病院等の医療従事者に対する最新の治療方法に関する研修会、症例検討会、臨床実地研修等を実施する。

情 報：エイズ医療ネットワークの活用等により、ブロック内の拠点病院等、患者・感染者からの診療に関する相談への対応、情報の収集、提供を行う。

出向先は次のとおりである。

北海道ブロック：北海道大学病院

東北ブロック：国立病院機構仙台医療センター

関東・甲信越ブロック：新潟大学医歯学総合病院

北陸ブロック：石川県立中央病院

近畿ブロック：国立病院機構大阪医療センター

中国四国ブロック：広島大学病院

九州ブロック：国立病院機構九州医療センター

VI 血液凝固異常症実態調査事業（厚生労働省委託事業、公4・調査研究事業）

血液製剤を通じてHIVに感染した血友病患者を中心に血液凝固異常症の病態を把握し、治療の向上と生活の質の向上に寄与することを目的として、血液凝固異常症患者を治療している全国の医療機関を対象に調査を実施した。1,236施設、1,414担当医等に調査票を送付し、537施設、612担当医等から約3,990の症例について回答を得た。

調査結果報告書は、回答のなかった医療機関を含め、すべての担当医及び患者等に提供し、フィードバックすることにより患者の治療とQOLの向上を図った。

調査の精度及び専門性を確保するため、医療関係者及び患者で構成する全国調査運営委員会を設置して実施した。

VII その他事業

（1）名義の付与

出版社等の発行する小冊子、リーフレット等の監修を行い、監修名義を付与した。

自治体・企業・団体等が主催するHIV感染症／エイズに関する講演会、チャリティイベント等に後援名義を付与した。

管 理 部 門

1 理事会

(1) 第21回理事会（決議の省略の方法による）

日 時：平成29年4月17日（月）

議 案：平成29年度エイズ予防財団助成事業助成対象者決定の件

(2) 第22回理事会

日 時：平成29年6月12日（月）16時00分～17時30分

場 所：エイズ予防財団会議室

議 案：平成28年度事業報告の承認の件／平成28年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件／代理理事の選定の件／理事長の選定の件／公益目的事業の変更認定申請についての件

報 告：第20回理事会（平成29年3月17日）以降の職務執行の状況

(3) 第23回理事会

日 時：平成30年3月23日（金）15時45分～16時50分

場 所：エイズ予防財団会議室

議 案：平成30年度エイズ予防財団助成事業助成対象者の決定の件／平成30年度事業計画・収支予算の承認の件／代表理事の選定の件／理事長の選定の件

報 告：第22回理事会（平成29年6月17日）以降の職務執行の状況

2 評議員会

(1) 第8回評議員会

日 時：平成29年6月30日（金）14時00分～15時00分

場 所：エイズ予防財団会議室

議 案：議長の互選の件／議事録署名人の選出／平成28年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認の件／平成28年度事業報告の件／理事の選任の件／監事の選任の件

報 告：理事会の開催状況等について

<附属明細書の作成について>

平成29年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので、附属明細書は作成しておりません。

平成30年6月

公益財団法人エイズ予防財団